

# 京都ALS患者囑託殺人事件京都ALS患者囑託殺人事件



『マミー』二村真弘 監督作品

声の出演 田畑智子 撮影 松村敏行 佐藤洋祐 照明 尾山隆之 カラーグレーディング オンライン編集 織山臨太郎  
音響効果 増子彰一 整音 富永憲一 配給 東風 ブロデューサー 石川朋子 制作 ぴえん  
製作 京都ALS患者囑託殺人事件 製作委員会 監督 二村真弘  
2026年1月19日 98分 DCP ドキュメンタリー © 京都ALS患者囑託殺人事件 製作委員会

digtmovie.jp

事件

殺人事件







# 「京都ALS患者囑託殺人事件」発生

2019年11月30日夕刻、

ALS（筋萎縮性側索硬化症）を患う林優里さん（当時51歳）から依頼され薬物を投与し殺害したとして、2020年7月、二人の医師が逮捕された。一人暮らしの彼女は事件当時、眼球しか動かさず、痰吸引や胃ろうからの食事、排せつなど24時間の介助が必要だった。主犯の大久保倫一と接触したのは、彼女が「安楽死」を望む言葉を度々投稿していたSNS。大久保らは事前に報酬として130万円を受け取り、初対面からわずか15分程度で殺害を実行した。さらに捜査で過去の殺人事件への関与も浮上。メディアは大久保の過去のブログなどから「ドクター・キリコ」への憧れや生命軽視の姿勢を大々的に報じ、「狂った医者」「優生思想の殺人鬼」と苛烈に非難。世間もまたそれに同調し責め立てた。そして25年、囑託殺人罪などで懲役18年の刑が確定した。

監督は、「和歌山毒物カレー事件」に挑んだ『ママ』（24）で自らの闇をも曝け出し鮮烈な印象を残した二村真弘。優里さんの父親、SNS上での彼女を知る元看護師や難病当事者、医療とケアの専門家たちへの取材を重ね、彼女の人生を掘り下げていく。そのなかで見えてきた制度の未熟さ。明らかに外から完全に遮断されるかもしれない恐怖、そして、身体が訴え続ける生への渴望。一方で二村は、大久保の半生を辿るべく、母親やかつての医師仲間を訪ねる。さらに供述分析を独自に実施し、大久保が収監される大阪拘置所へ――。

死に向かうメッセージの交換には、

二人がまるで旅行の計画でも立てているかのような、

不思議な軽やかさが漂っていた。

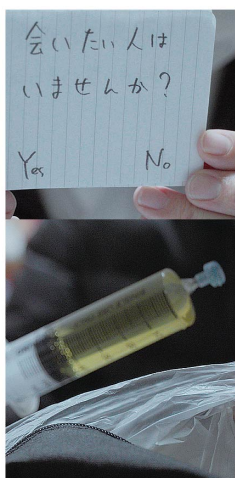
この最期の対話は、それまでの「悲惨な被害者」と

「冷酷な加害者」という単純な事件像を覆す力を持っていた。

「死にたい」という声を覆い隠す社会は、同時に「生きたい」という訴えも

無いものにする可能性を孕んでいるのではないだろうか。

二村真弘 監督



10.31 土曜日  
ロードショー

ムビチケ前売券（オンライン）¥1500（税込）発売中

ユーロスペース  
EUROSPACE  
渋谷・文化村前交差点左折  
tel 03-3461-0211  
www.eurospace.co.jp



digtmovie.jp  
@digtmovie  
@digtmovie

